

報 告 書

(道 下 班)

開 催 日 時	平成 30 年 5 月 15 日 (火) 午後 7 時～午後 8 時 30 分	
開 催 場 所	弥栄会館	
出 席 議 員	道下 文男、沖田 真治、串崎 利行、 飛野 弘二、芦谷 英夫	
	司会進行	道下 文男
	説明者	串崎 利行、沖田 真治、飛野 弘二
	記録者	芦谷 英夫
	議長団	川神 裕司 議長
参 加 人 数	6 人	
主な要望・提言等	<p>1 議長あいさつ 皆さんの意見を市政に反映するようにやりたい。情報公開を進めており、プライバシーなどに問題がない限り情報を公開することで、ユーチューブでもアップしている。ふるさと体験村は弥栄にとって大事な施設で、オール浜田で考え、ベターな選択として直営とした。地域の皆さんの多くの意見を聞きたい。中山間地域振興特別委員会を設置し、どう再興できるのか議会の視点でやることで、議会で先行してやりたい。</p> <p>2 質疑応答・意見等 (意見) 予算の銀行借入れとは何か、ヤミ起債ではないのか。借入総額とその利率は何パーセントか。 (議会) ヤミ起債はない。銀行借入れは 15 億円、利率は 0.3%。</p> <p>(意見) 3 年前に指定された避難場所である老人ホームは、前に河川、裏に山をかかえ、夜は河川水位が分からない。監視カメラをつけるよう提案したが、支所がウンと言わなかったがどうしてか。 (議会) ゲリラ豪雨もあり、安全安心まちづくりとして、消防団も見守り、情報収集など活動をしており、リアルタイムで拾うことが求められ、これまでの議論の積み重ねをベースとして、カメラつけることになり予算化された。</p>	

主な要望・提言等

(意見) 行政では予算を消化してしまうのではないかと。不足なくなったら補正するが、民間では他を削って補正するが、補正予算、資金はどこから持ってくるのか。

(議会) 緊急を要するもの、新しい事業、予測不可能なものなどから補正し、補正の財源は国県補助、基金などで充当する。できるだけゼロベースでやっており、不用額を出し返すことは、次につながり評価している。

(意見) 浜田駅周辺のホテルの計画について

(議会) ステーションホテルはコガワ企画でルートインでの計画が予定され、ダップスの跡には東横ホテルが計画されている。

(意見) ふるさと体験村の存続について、自治会・地域協議会などで要望書に署名したが、議員の厳しい意見が正論である。体験メニューもない、風呂と言えるものではなく、食堂ぐらいである。大赤字を垂れ流している。これからでも遅くはない、検証委員会を立ち上げ、キッチンとしてオープンすべきであり、直営も見直してやるべきだ。

(議会) 市では検証委員会でやるとしており、市全体でふるさと体験村の活性化をやるべきで、地元の人をもっとやる気を出してほしい。

(議会) いろいろな考えがあるのは当たり前であり、反対意見もあったが、応援団ということで地元からは直営でやってほしいとの意見が多く寄せられた。

(意見) 弥栄にとって大事な施設であることは承知している。中途半端な営業である限り赤字が出、人は来なくなる。一端止めてキッチンとして新生体験村としてやってほしい。

(意見) 当初、コンベンションビレッジ弥栄計画としてやってきて、県へ申請し通産省も「面白い、応援するからやれ」としてスタートしたものである。手当の遅配などあり市直轄で見てもらう、経営は難しいが発想を変え支援してほしい。

主な要望・提言等

(意見) 山奥を大事にせよ、郡部を大事にしないと浜田の繁栄発展はない、市長もそう思っている。浜田の奥座敷として、知恵を貸してほしいし地元も努力する。弥栄の一つの施設として立ち直らせる方法をとってほしい。

(議会) 市の元気には、奥部、周囲から元気にすべきで、今まで手つかずであった中山間地域に対して、特別委員会を立ち上げ、意見をお聞きし取り込んで知恵を拝借し、課題を絞り込んで提案したい。

(意見) 地域協議会として検証委員会の副会長を仰せつかった。検証委員会に地元の者がいないのはどうか。地元では議論や意見が分からない。皆で見える議論をすべきで、地元から意見を出し、熱を出してモノ申して行きたい。

(意見) 自治区長が集落を回り意見を聞いており、どうなってほしいかの意見は出ている。

(議会) どう施設を残すか、持続可能にするにはどうするか。検証には、公社のずさんな経営はどうして起きたのか、原因、正すべきこと、課題、解決方法など、どう存続させるか検討し検証委でやる必要がある。原風景、体験メニューは大事であり、地元意見を集約しどうやって施設を存続するか、よろしく意見をお願いしたい。

(意見) 敬老入湯券について (⇒説明)

(意見) 検証委員会は公開されており傍聴できるが、批判や犯罪の事実は検証しないとしており、原因や対策には目をつむり6月には結論を出すとしている。従業員にレジオネラ菌のことは口外するなどし、労働基準監督署が入っても、また隠していることがある。前のことをキチンとしないのに前には行かない。検証委員会が有効にやられていない、委員会に何を期待するのか、ほとんど意味がない。

主な要望・提言等

(意見) ふるさと体験村は、考え方として弥栄ばかりでなく市全体の位置づけとしてやるべきで、市町村合併でコンベンション振興計画は消えた。市民の森、三隅川、周布川、下流には海、漁業もあり、連携を持ちお互い機能を守ってやっていこうとした。観光交流だけ、観光では経営が成り立たない、2,800万円の赤字の意識でやっているのはダメだ。利益追求と公共的な施設地域振興に必要な施設の2つの考え方がある。原点に帰る必要があり、議員にもこのような認識を持ち一緒にやってほしい。

(意見) ふるさと体験村によく行っており、従業員はきちんとやっている。問題はあってもいろいろなことをやっており、体験村のいいところを見つけて、反省しながらこれからのことを考えて行きたい。

(意見) いろいろな問題があぶり出された。レジオネラ菌、白タク、最低賃金など突発的に起きたことではなく、基本の基本のこと、立ち上げのときから公社が精通しておらず、最初からそうであり、中に入って理事会としてきちんとすべきであった。地元として反省すべきである。かつてコンサルが入ったが、その理想論や行政が関わってはうまく行かず、行政主導ではダメである。

(意見) 28～29年度島根プロモーションに300万円のコンサル契約をしているが、ふるさと体験村をどのようにするのかの、成果物がかかれていないがどうか。

(意見) 風力発電計画が金城から弥栄に移ったことについて

—以上—

浜田市議会議長 川 神 裕 司 様

平成30年6月4日

議会報告会実施規程第9条第1項の規定により提出します。

代表者 道 下 文 男